

第2回アイランドシティ・未来フォーラム

平成23年8月20日（土）

【事務局（谷口）】 それでは、時間になりましたので、開会に先立ちまして事務局からご連絡申し上げます。

まず、本日お配りしております資料の確認をお願いいたします。資料は会議次第、委員名簿、座席表、それからアイランドシティの都市機能について、アイランドシティ自然エネルギー活用ビジョンの資料をお配りしております。

次に、第1回フォーラムにはご欠席で本日ご出席の委員の方を改めてご紹介させていただきます。

株式会社DLC日中ビジネスコンサルティング代表取締役社長の青木委員でございます。

【青木委員】 よろしくをお願いいたします。

【事務局（谷口）】 なお、本日は九州経済産業局長の滝本委員はご欠席でございます。

次に、報道関係の皆様及び傍聴される皆様には、当フォーラムの円滑な議事進行にご理解とご協力をお願いいたします。カメラ等の撮影取材は委員の皆様の自由な発言、議論の妨げとならないよう、十分なお配慮をお願いいたします。

また、傍聴者の皆様には注意事項をお渡ししております。傍聴席からの発言や拍手等できません。注意事項を守られない場合は退席していただきますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これより会議の進行は出口委員長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【出口委員長】 どうもありがとうございます。委員長を仰せつかっております出口です。どうぞよろしくお願いいたします。

時間も限られておりますので、私のあいさつは割愛させていただきます。

それでは、ただいまから第2回アイランドシティ・未来フォーラムを開催いたします。

早速ですが、議事に入らせていただきます。本日はアイランドシティの都市機能についてを議題として、まず港湾局から30分程度ご説明を受けた後に、質疑応答を中心にご議論いただきたいと思いますと思っております。

それでは、港湾局からのご説明をまずお願いいたします。

【港湾局（馬場）】 福岡市港湾局の馬場でございます。

今からスクリーンに映すのはお手元にある資料と全く同じものがございますので、お手元の資料も活用しながらご覧ください。

それでは、1ページをめくって、目次のほうから見ていただきます。

今日の議題でございますが、まず一つ目はアイランドシティの位置づけということで、全市においてアイランドシティがどのような位置づけにあるかということでございます。

それから、アイランドシティの都市機能というのが今回のテーマでございますので、産業についてはどんなふうを考えていくかというのが二つ目のテーマでございます。

それから、環境共生のまちというのがもう一つのテーマでございます。

最後に、多様な都市機能ということで、公共的な機能も含む産業以外のいろいろな機能についてのテーマをご議論いただきたいと思いますと思っております。

それでは、アイランドシティの位置づけのページに行きます。

これは全市的な位置づけのお話ですが、福岡市のマスタープランの中でアイランドシティは位置づけられておまして、最新鋭の港湾施設を備えた国際物流拠点の形成という港づくりの話、それともう一つは環境と共生し、質の高い居住環境や新しい産業集積拠点を形成する先進的モデル都市づくりということで、本市東部における新たな拠点地域の形成を目指すということで、東部における拠点をアイランドシティでつくっていこうという全市的な方針がございます。

それから、アイランドシティの中での位置づけでございます。アイランドシティ事業計画の中におきまして、まちづくりエリアのコンセプトを定めております。「都市活力の向上に挑戦する“グリーンアイランド”の創造～豊かな自然と共生する低炭素型のまちづくり～」というコンセプトを掲げておまして、それに合わせてまちづくりエリアの目標像を三つ掲げています。「多様な人が学び、新たな産業を創出するまち」「環境共生を実感できるまち」「多様な都市機能と良質な住環境が共存する交流のまち」と、先ほどご説明いたしました目次に沿ったような形の中身になっております。

次のページで、では土地利用ゾーニングを見たらどうかということでございますが、これは前回ご説明しておりますけれども、アイランドシティのまちづくりエリアだけの図面でございますが、海側のところが住宅ゾーン、それからみなとづくりエリアとの境のところが新産業・研究開発ゾーン、産業系でございます。それから赤で囲んでいるところがセンター地区、「にぎわいと触れ合いの場」をつくっていこうというところでございます。そ

れから複合・交流ゾーンにつきましては、資料の表の下のところに書いていますけれども、健康・医療・福祉、国際ビジネス、商業、居住等の機能を導入し、複合的な交流空間を形成していくというゾーンでございます。

ボリューム感をご確認いただくために、ゾーン別の分譲計画について、先ほどのゾーニングに従って色分けをしております。表の右下をごらんいただきたいんですけども、今後分譲していくのが63.6ヘクタールでございます。そのうちの29.7ヘクタールというほぼ半分が住宅、複合・交流ゾーンが14.6ヘクタール、新産業・研究開発ゾーンが19.3ヘクタールというボリュームになっております。

それから、次に産業の項目でございます。福岡市において産業誘致をどのように考えているか、本市において産業集積を図る分野をこの表に掲げております。この対象分野については、福岡市の企業立地交付金で誘致活動を行っているということでございます。対象分野は、情報関連産業、ナノテク・環境・エネルギー、それからデジタルコンテンツ、自動車、健康・医療・福祉、都市型工業、アジアビジネス、物流関係となっております。

次に、参考に載せております立地交付金の中身ですけれども、簡単にご説明しますと、所有型というのは土地、建物に投資をしていただいて、新しく持っていただく型です。賃貸型というのは、対象業種の方に借りて事業を行っていただきます。その他というのは調査費のようなことで、外国企業が出てきた場合ということで、新設の場合だと総投資額の10%で限度額10億円という制度を福岡市の場合は持っております。

それから、他都市の事例でございます。詳細にご説明することは避けませんが、例えばそれぞれ都市の特性がありまして、いろいろなものを置いております。例えば仙台でありますと広域集客型産業を持ってきたり、さいたまや千葉であれば本社機能に関してお金をを出しています。例えば横浜だと上限が20億だったり、静岡だと上限が30億だったり、それぞれ各都市で考えて制度を持っているところでございます。名古屋市だとデザイン産業を振興したり、大阪だと理工系の大学や生活利便施設にも支援をしております。

額としては浜松が38億円と一番大きな額になっていますが、京都や新潟のように上限なしということで、固定資産税5年分相当額の交付金を出しているところもございます。それから、交付金はないけれども税金の軽減ということで、例えば堺市でありますと5年間5分の4の軽減をするという制度をとっているところもございます。

それから、表の一番下になりますけれども、企業立地交付金制度のほか、札幌、名古屋、神戸、北九州などでは土地の賃貸制度を設けておりまして、産業の誘致を行っているところ

ろでございます。

それから、次は福岡市の空間ということで見たときに、どのような産業集積拠点があるかということでございます。九大の周辺でナノテク関連産業を振興しているところでございますし、シーサイドももちでは情報関連産業の立地が進んでおります。一番の業務系はもちろん都心部でございまして、そういう中でアイランドシティにはどのようなものを形成していくかということでございます。

アイランドシティの産業集積方針としましては、新産業・研究開発ゾーンでは四つの集積を進める分野を掲げています。健康・医療・福祉、知識創造型産業、自動車、国際ビジネスでございます。その中でも研究開発機能や人材育成機能を中心に立地を進めていきたいと考えています。

それから、赤丸のセンター地区でございますが、商業・業務とか教育・科学・文化・芸術機能などの多様な都市機能を導入し、広域から人が集まる「にぎわいと触れ合いの場」を形成ということでございまして、アイランドシティセンター地区には企業立地交付金が別途ございます。延べ床面積1万平方メートルを超える大規模な集客施設について交付金を出すものでございます。

その下の括弧のところに書かせていただいておりますけれども、商業施設については現在、土地の賃貸による事業展開というのが一般的でございまして、商業施設の事業者からは、土地は賃貸でやるほうが事業はしやすいという声も上がっているところでございます。

それから、ふくおか健康未来都市構想の推進でございます。先ほど四つの方針の中の一つの健康・医療・福祉関連の振興ということで、ふくおか健康未来都市構想の推進を行っています。これはちょっと省略して説明させていただきますが、メディカルコア機能——新こども病院、杉岡記念病院などの高度な専門医療機関を集積していこうということでございます。

それから研究開発・ビジネス機能は、黄色の枠の中で書かせていただいておりますけれども、アジア諸国の福祉ニーズに対応するために、高齢化で先行している日本の知恵をアジアとともに研究していったって、アジアに貢献していこうという考え方でございます。それから福祉・居住機能ということでございまして、こちらのほうは福祉施設とかでございます。

実際に高度専門医療機関とかは、こども病院、杉岡記念病院、高齢者関連は特養、それからスポーツ研修施設が出てきております。

それから、産業連携や創業支援機能ということで、福岡ビジネス創造センターを開設し

ております。こちらのほうはインキュベーション機能を持つ施設でございます。もう一つは産学連携の共同研究を行っています。インキュベーション施設への入居期間は原則3年までになっていますので、入居企業はどんどん入れかわっていくという形態でございます。それからサイバー大学でございますが、アジアビジネス特区を活用した、インターネットで行う4年制大学をこちらに立地していただいております。

それから、企業立地の状況でございます。23年8月現在で、本社を移転してこられた事業者も含めて19社が進出しています。うち12社はビジネス創造センターの中に入居されているという状況です。

進出している理由でございますが、自然が豊かで職場環境が良好である、高速道路へのアクセスがよく車による広域活動には便利である、空港が近くアジアや東京の取引先とのアクセスがよい、駐車スペースの確保が容易である、福岡市は人材確保がしやすいということによって進出をされております。

逆に進出を見合わせられた理由で、土地の価格が想定と合っていなかった、鉄道が通っているなど交通利便性の高いところがいい、賃貸オフィスの需要は都心部に集中している、小規模（数百～数千平米）での土地購入を希望していた、アイランドシティは島形式でございますので、周辺から人を呼び込むためには高い集客力がないと難しい、それから土地の賃貸を希望しているというお話でございました。

それから3番目、環境共生のまちでございます。こちらにもアイランドシティ事業計画の中で環境共生を掲げております。自然環境との共生とか省エネルギーシステムの導入など、環境共生都市を目指した取り組みを推進するというところで、三つのテーマと五つのキーワードに基づき都市づくりを行っていくことにしております。低炭素型モデル都市づくりとか自然との共生、持続可能なまちということで、エネルギー、マネジメント、資源循環、自然環境、ライフスタイルというキーワードをもとにまちづくりを進めていくということでございます。

それから、次のページでございますが、太陽光などの自然エネルギーを活用したまちづくりを進めていこうということで、アイランドシティ自然エネルギー活用ビジョンを取りまとめております。皆さんのお手元に配付させていただいているものでございます。中身としましては、中期・長期の取り組みと将来のまちの姿を示したものでございまして、ここでは中期と長期から主な取り組みを一つずつご紹介しようと思っております。

中期でございますが、おおむね5年後、CO₂ゼロ街区の形成ということでございませ

て、街区内の全住戸に太陽光発電を設置して、燃料電池と合わせてメガワット級の創エネを行うということで、全175戸で太陽光が6.28キロ、または太陽光4.15キロ+燃料電池ということでやっていこうと思っています。それから、高気密・高断熱仕様、LEDなどの先進的な省エネを入れていこう、すべての住戸にモニターを設置して、個々の住宅と街区全体での「見える化」を行っていこう、それから電気自動車やプラグイン・ハイブリッド車の導入を促進していくために充電用のコンセントを全戸に設置していこうということでございます。

それから20年後、長期の取り組みでございますが、地域内における「エネルギーの地産地消」の実現を目指したい。電気とか熱のエネルギーを地域内で融通・共同利用していきたい、自然エネルギー等を地域内で効率的に活用していくための基盤インフラを整備していきたいということで、下の図のようにイメージしております。

それから次、福岡スマートハウス・プロジェクトでございます。ITを活用した家庭内の賢く効率のよいエネルギー制御を目的とした実証実験で、福岡市は場所を提供しております。実施主体は福岡スマートハウスコンソーシアムということで、スマートグリッド関連機器を研究開発する30の企業や大学が参加されております。それぞれの分野の技術とか機器を持ち込んで、皆さんで組み合わせて実験をしています。場所はアイランドシティの中央公園内にあるレンガ住宅で行っておられます。発電・創エネの話、制御の話、蓄電の話、管理の話など、それぞれの得意とする分野の技術を持ち寄って、つなぎ合わせて実験をしています。

それから、もう一つの柱でございますが、多様な都市機能があるまちということで、これもアイランドシティ事業計画の中に幾つか触れております。

一つは、環境共生のまちづくりの拠点機能が要るのではないかということでございます。アイランドシティを中心とする博多湾東部地域は環境共生のまちづくりの重点地域として、環境の保全・創造や環境共生の取り組みを積極的に推進していくべきエリアだろうということで、その取り組みを支援するような環境情報や教育・交流などの拠点機能が要るのではないかということでございます。

それから、健康・スポーツ促進ゾーンでございます。海の中道や雁の巣にホークスの二軍とかアビスパの練習場、それからパークポートのほうにもコカ・コーラウエストとかアビスパのグラウンドがございます。こういうふうな周辺のスポーツ施設と、アイランドシティの中にもグリーンベルト、中央公園、外周緑地といろいろございます。ふくおか健康

未来都市構想に基づき集積している健康・医療・福祉関連施設等もありますので、健康・スポーツ促進ゾーンのような形で広域的につくっていけないかという考え方でございます。

3番目が、集客・交流機能が集積した活気とにぎわいにあふれた拠点の形成でございます。アイランドシティの立地特性、下に書かせていただいておりますが、例えば都心・空港からわりあい近いという話であるとか、大規模なまとまった土地の確保が容易であるとか、周辺の緑の環境が豊かであるとか、そういうところにふさわしい教育・科学・文化・芸術施設などの集客・交流機能を集積していったらどうかという考え方でございます。

それから、以降は参考でございます。アイランドシティの立地特性で、これも前回お配りしていると思いますが、アイランドシティの大きさを実感していただくために、博多駅から考えますと舞鶴公園の手前までアイランドシティがあるという図でございます。

それから、次のページはアイランドシティの立地特性ということで、豊かな自然環境があるということでございます。志賀島からずっと緑が続いているという状況でございますし、エコパークゾーンということで、海を生かした環境の場をつくっていきたいと思っております。

それから、次の立地特性でございますが、環境関連施設、これは生態系関連も含めまして考えますと、マリンワールド、淡水化施設、清掃工場、それから大学や財団法人などの研究機関がいろいろございますし、図面の下のほうには、NPOあるいは市民の活動が活発に行われているところでございます。

それから、スポーツ関連施設でございますが、雁の巣レクリエーションセンターにはソフトバンクの二軍やアビスパの練習場もあります。それからフットボールセンター、さわやかスポーツ広場、野球場もございますし、スポーツ研修施設やみなと100年公園もあります。そういう中で、その環境を生かしながらスロージョギングの教室が毎月開催されていたり、昨年度はツール・ド・フクオカの自転車のイベントが行われております。

それから参考2は他地域の開発事例と比較したらどうかということでございまして、福岡市内でいきますと、埋立地の事例としてはシーサイドももちがございまして、面積が138ヘクタール、分譲期間は61年から21年ということで、約24年かかっております。居住人口は8,000人、就業人口は1万4,000人、税収は56億円でございます。これは市税だけでございまして、このほか推計で県税だと31億円、国税だと63億円ということで、まちづくりについての税源涵養効果は、新規の開発については間違いなくあるということでございます。

それから、主な公共的施設としましては、博物館、図書館、タワー、こども総合相談センター、ソフトリサーチパークの関連施設ということで、かなり公共施設が出てきております。分譲面積約95ヘクタールのうち、公共的施設の立地が13%でございまして、アイランドシティは現時点では約3%という状況でございます。

それから、地行・百道地区の中の業務系のコア施設といたしますか、福岡ソフトリサーチパークでございます。シーサイドももちのうち6.3ヘクタールで、ソフトリサーチパークセンタービルと財団法人の技術研究所を中核として、国内外の情報関連企業の研究部門等が立地しております。近隣にも福岡LSI総合開発センターなど国関係の施設とか、半導体関係の集積も行われております。それから、ここに事業所数が108社、従業員が約6,000人、総生産が600億ということで、この1区画においてもかなりの産業振興効果があると考えております。

それから、次のページでございます。こちらのマリナタウンはシーサイドももちよりもっと住宅系が強いところでございますが、面積は74ヘクタール、分譲期間は61年から19年で、9,900人がお住まいでございます。就業人口500人で税収が13億円。ちなみに、このほか推計で県税だと6億円、国税だと21億円ということで、やはり新規の開発エリアにおきまして税源涵養効果がはっきり見られます。それから、主な公共的施設としては女子校がここにあります。分譲面積46ヘクタールのうち、公共的な施設の立地は15%ということでございます。

他地域の事例としまして、他都市を見てみたいと思います。横浜のみなとみらい21です。面積は186ヘクタールということで、ほぼアイランドシティのまちづくりエリアと同じです。居住人口7,600人、就業人口は6万7,000人、進出企業も1,250社と、かなり集積が進んでいるところでございます。税収も市税だけで145億円です。特色としましては、東京に負けないような中枢管理部門を誘致しようということで、日産グローバル本社等が立地しております。主な公共施設としては、パシフィコ横浜、横浜美術館、博物館、みなとみらいのスポーツパークなどでございます。分譲面積のうち公共的施設は17%でございます。

それから、次は神戸市ポートアイランドでございます。こちらは833ヘクタールですが、1期・2期に分かれております。居住人口が約1万5,000人、316社が進出しております。特色は、医療産業都市ということで理化学研究所などの先端技術の拠点がでてきている、それから学術都市ということで大学が複数出てきているというところでご

ございます。主な公共施設としては、青少年科学館、スポーツセンター、国際会議場、医療産業都市構想関連の施設でございます。医療産業都市構想関連の施設としましては、中核施設として理化学研究所が三つほどございまして、再生科学の関係、分子イメージング、それからスーパーコンピューターでございます。それからそれに関連して、先端医療センターであるとか神戸臨床研究情報センター、バイオメディカル創造センター、国際ビジネスセンター、インキュベーションオフィスなどを整備しているところでございます。

次は東京都でございます。東京都の臨海副都心は442ヘクタールで、ちょうどアイランドシティと同じぐらいの大きさになります。特色としては、官民の展示施設・機能が集積しているということで、日本科学未来館、船の科学館、東京都水の科学館、それから有明のスポーツセンター、コロシアム、ビッグサイト、パナソニックセンターなどが集積しております。分譲面積のうち14%に公共施設が張りついております。

それから次の参考3は、まちづくりについての住民アンケートで意見が多かった項目ということで、平成22年8月に福岡市が実施したものでございます。交通アクセスについてはバスの増便・自専道の延伸、生活利便性についてはスーパー等の立地、マナー・交通安全は夜間見回り、医療施設については病院等・医療施設の充実、スポーツ・文化関連では文化施設・健康増進施設の立地。

第1回目のフォーラムでお話ございましたとおり、3回目、次回のフォーラムで地元自治組織が実施したアンケート結果について委員からご報告がある予定になっております。

それから、アイランドシティ立地企業等連絡協議会でございますが、アイランドシティで活動する各企業・団体が共通の課題に連携して、まちの魅力を図ることを目的として設置しております。効果的な情報発信とかイベントの連携、まちの魅力向上策などを検討しております。立地企業の方々も都市機能等についてご意見があられるようで、できれば3回目の未来フォーラムで意見を述べる場を設けていただけるとありがたいというお話がっております。

以上でございます。

【出口委員長】 どうもありがとうございました。

今の説明に対してのご質問などをお受けする前に、既に事前にお目を通していただいている方はおわかりのとおり、資料の31ページ目の最後に記載してありますように、次回の第3回目のこのフォーラムで、立地企業等の連絡協議会の民間事業者から、立地した企業の立場でまちづくり等についての意見を述べる機会を与えてほしいという要望が上がっ

ているということです。これの取り扱いについてまずお諮りしたいと思います。何かご意見等ございますか。直接この場に来ていただいてご意見を述べていただくことについて、いかがでしょう。ご賛同いただければ、次回にお呼びして意見を述べていただきたいと思います。よろしいですか。

〔「異議なし」との発言あり〕

【出口委員長】 ありがとうございます。それでは、皆様のご賛同をいただいたということで、次回、立地企業等連絡協議会の民間事業者の方をフォーラムに招聘しまして、直接意見を述べていただくことにしたいと思います。

あわせて、前回ご提議ありましたように、住民の方の意見も集めていただいているので、それもあわせてこの場でご披露いただくということで、よろしく願いいたします。

それでは、今ご説明していただきましたアイランドシティの都市機能について、この内容に基づいて議論を進めていきたいと思えます。何かまずご不明な点等ありましたらご質問いただきたいと思います。いかがでしょう。何かありますか。

では、皆さんに考えていただいている間に、私のほうから何点か確認だけさせていただこうと思えます。一つちょっとわかりにくかったのが、資料の3ページ目のアイランドシティの位置づけに土地利用ゾーニングとゾーン別の分譲計画があり、下に表が載っていますが、面積が合計で106.9ヘクタールとなっています。この図に記載の全体が106.9ヘクタールですか。この表と図との対応を確認させていただきたいんですが。

【港湾局（馬場）】 分譲する区画の面積ということでございまして、例えばこの表の下の米印の2番目にあるように、各ゾーンの面積は、ゾーン内の各区画の面積を合計したもので、道路とか公園あるいは小中学校、公民館の面積を除いております。例えば中央公園や小中学校というのは面積に入っておりません。それを除いた分譲面積として106ヘクタールということになります。

【出口委員長】 私の記憶だと、全体が200ヘクタール近かったですよね。

【港湾局（馬場）】 そうです。全体では200ヘクタール近いです。

【出口委員長】 ということです。よろしいですか。ほかに何か確認したい点等がありましたらお願いしたいと思います。よろしいですか。

そうしましたら、どこからでもよろしいですかね。今日は主にアイランドシティのまちづくりエリアと呼ばれている部分の内容について、皆様からご意見等、コメントをいただきたいと思えます。それでは森委員、お願いします。

【森委員】 今ご説明を受けまして、ちょっとお聞きしたいのは、他地域の事例で、例えば横浜だったらみなとみらい、あるいは神戸だったらポートアイランドというふうになっていますが、全国にこういう名前で発信しているというような正式名称みたいなのはあるんですか。

【出口委員長】 前回は名称の話が出ましたけれども、これらのほかの事例に関してはどうなのでしょう。

【港湾局（馬場）】 済みません、正確には存じ上げていないんですけれども、ポートアイランドとかこの辺、あるいはみなとみらい21も、これはもともと別の事業名がありまして、それを統括した形の愛称といいますか呼び名といいますか、そういうものだと思います。例えば福岡市のシーサイドももちは、事業の正式な名称としてはシーサイドももちという事業の名称ではなくて、シーサイドももち地区という形のとらえ方をされております。それと同じような形で、例えばポートアイランドだったら地元での愛称として呼ばれていると聞いております。

【出口委員長】 既にここで紹介されている名前が愛称なのですね。さらに「みなとみらい21」というのは非常に長いので、よく「MM21」と呼んだりしていますね。アイランドシティのことを「アイシー」と呼んでいるのと同じようなことかと思えます。

はい、どうぞ。お願いします。

【増山委員】 増山でございます。

今のご説明の中で、ある程度前回の流れもあるのでわかるような気もするんですが、21年12月策定の計画に基づいて進められていて、港湾局さんというか市としての課題とか悩みという部分についてはご説明がなかったと思うんです。その辺はどんな感じかというのを教えていただきたいと思えます。

【出口委員長】 今日のご説明は、計画どおり順調にしているということが中心だったような印象も受けますが、どうでしょう、もし課題について整理されていたら、お願いしたいと思います。

【港湾局（馬場）】 今の申し上げ方は、事業計画の中でこういうことを目指しているということで申し上げたもので、このとおり順調にしているということではございません。そういう意味では、さまざまな課題は正直ございます。

例えば3ページの図面でゾーン別の分譲状況を見ていただきたいんですけども、この博多港開発工区、中央公園があるほうを見ていただきますと、右側のほうとかはかなり

白い。つまり住宅系についてはかなり事業が進んできていると言えるんですが、新病院の上下といますか、このあたりのかかなりの面積がある産業ゾーンについては、実際の進出事業者である医療機関と高齢者施設以外、なかなか土地を買ってまで進出していただける事業者が見つかりづらいというところが正直ございます。福岡市がアイランドシティをつくる時の四つの目的のうちの一つであります産業ということに関して、いかにしてこの残された大規模な土地に根づかせるかということについては、非常に課題だと思っております。

【出口委員長】 今のお話はどれですかね。9ページを見たほうがよろしいんですかね。今お話になっていたのは9ページ目の水色のところですか。

【港湾局（馬場）】 そうでございます。

【出口委員長】 水色のゾーンの土地処分を進めるのが課題というふうにお考えだということですかね。

伊東委員、お願いします。

【伊東委員】 伊東でございます。前回も思ったんですけれども、今回ご説明を聞いていて、例えばゾーニングの性格づけをある程度はされていると思うんですが、各回の討議するテーマをもう少し絞ったほうがいいのではないかと思います。例えば住宅ゾーンにおいてはこれからどうやってまちづくりして人が住みやすい土地にしていくかということと、この新産業・研究開発ゾーンを同列に語って行くのか、もしくは、異なった地域の複合的なテーマを融合させていくのかが、はっきりとしない。例えば私もかかわりました、アイランドシティに類似したプロジェクトである、みなとみらいとかポートアイランド、六甲アイランド、で言えば、六甲アイランドは医療がありましたし、ポートアイランドではファッションとスポーツというテーマがありました。また、みなとみらいでは文化ホールや商業施設を中心とした新たな副都心というはっきりしたテーマがありましたけれども、今のご説明を聞いている限りでは、全体のどこを討議しようとしているのかがはっきりしない。この全体を全く一つのまないたの上で料理しようというのは不可能ではないかと思えます。テーマ別の討議をしていくべきだと思います。ただ、全体を通じてなされていない、もしくはしなければいけないこともあって、それは、この島の性格づけです。その中で、例えば人の生活に落とし込むときはどういうフレームにするか、例えばどういう産業が適正か。早く分譲したいという必要性はわかるのですが、福岡の中で大事な位置を占め、その新しい中心地となるべき地域全体をしっかりと討議していかなければいけない中で、その

総合的なビジョンを得るためにも、ゾーン別に各回のテーマを絞って討議していくほうがいいのではないかと思います。

【出口委員長】 ありがとうございます。

第1回目のときに、このフォーラムの進め方についての説明がありましたけれども、今回を含めて、1回目から3回目までまず網羅的な説明を受けて、それから4回、5回、6回目でご議論いただくということにしたので、伊東委員からご指摘いただきましたように、ぜひ我々のほうである程度テーマのカテゴリーを絞り、それを共に議論していくようにしてはどうかと思います。

よろしいですか、大庭さん。

【大庭委員】 大庭です。

今、伊東委員がおっしゃったように、この住んである方と商業ゾーンというのは関連する部分もあるんですけども、まず今住んである、また将来的にここで生活される1万8,000人のことを考えたら、安心安全とか、そのために何をしなくてはいけないとかいうのがメインになってくると思うんですよ。例えば1万8,000人を想定するならば、今は犯罪が少ないとかいうことはありますけれども、やっぱり消防署とか消防・警察というのは当然早目に、事前に置いて、安心安全ということをアピールしながらやっていくべきだと思います。

もちろん、消防になれば福岡市の管轄になりますし、警察の場合は県になりまして、予算の問題もいろいろありますからあれなんでしょうけれども、これらについていつごろを想定するかとかいうことを明確にしないと、トータルないろいろな話があるんですけど、税収を上げるとかいう部分と、まちの人が生活していくのはちょっとずれる部分があるので、そこら辺は今、伊東先生がおっしゃるように、まちづくりのために何が必要なのかとかいう部分と商業ゾーンについては別にしたほうがいいのではないかと思います。

【出口委員長】 そうですね。ありがとうございます。

青木委員、よろしいですか。

【青木委員】 青木と申します。前回欠席をしておりましたので、もしかしたらちょっととんちんかんな話になるかもわかりませんが、まずは、今回委員を引き受けさせていただいた経緯のお話をします。もしかしたら全くルールから外れるような話になるかもわかりませんが、でも、そもそも論としてお聞きいただければと思います。正直、アイランドシティ・未来フォーラムというこのネーミングをお伺いしましたときに、アイ

ランドシティの今の空き地を埋めるための委員会というイメージが私にはすごく強くありました。それだけだったらあまり参加する意味はないのではと思いました。

この委員会は、これほど各界・各層の代表の方々が参加されているのですから、福岡が目指す10年後、20年後、30年後の未来像をどう描くのか、その中でアイランドシティも含めたウォーターフロントの部分をどのように捉え、ゾーニングして行くのかを議論することが大切ではないかと思います。つまり、アイランドシティだけに焦点が絞られるのではなく、これから福岡はどのような都市を目指していくのか、全体像の中でアイランドシティがどのような機能を持つ場所にするのかを議論することから出発すべきだと思うのです。

能古島、志賀島も含めて、小戸、マリノア、百道浜から中央埠頭、須崎埠頭、それから東浜からアイランドシティにつながっていく、このサークルをどのように描いていくのか、これをどう生かしていくのか。これらのエリアは間違いなく、福岡にとってとても貴重な財産だと思うんですね。福岡の未来像を考えるときに、このあたりことを議論なくして福岡の未来、更なる飛躍はないと思うんですよ。ですから、アイランドシティだけに焦点を絞って議論しても、福岡の未来像は見えてこないのではないかというのが率直な一つの思いであります。

アイランドシティと福岡市の事だけを考えても、多分福岡の未来像は見えてこないと思います。これから福岡は極めて重要な都市となってくると思うので、これからは、福岡県の中での福岡市の役割、九州の中での役割、日本の中での福岡市が持つべき機能とは何なのか、それを見据えた都市計画が必要なのではないと思うのです。今、震災後の日本の全体の経済を見渡したときに、これから福岡市が日本の中でどういう役割を担っていくのか、そのあたりの視点を持って議論していく必要もあるのではないかと思うんですね。そういった意味から考えれば、ここで何回かだけ議論をして福岡の未来が固まるような話ではないような気もいたします。

それから、事務局の皆様がこうやってすごくご苦労なさってつくっておられる資料が無くなるような話をして申しわけないんですけれども、これまでに、私は何度かアイランドシティにも足を運んで、アイランドシティのタワーマンションの上から下を見渡したことが何度かあるんですけれども、美しいロケーションの中に住宅環境が整えつつある状況の中に、あの大きなコンテナヤードどうしてしっくりときませんね。アイランドシティを一体どういう場所にしていこうとしているのか、そのビジョンとか未来像が見えないんで

すね。アイランドシティは20年前に埋め立てをしてから、ずっと利用できない状態の中できました。いくなれば市民の税金をいっぱい使ってここまで来たわけですね。それを取り返すためにも、アイランドシティを最大の価値を創出して福岡の未来のために生かして行く必要があると思いますので、この委員会での議論は福岡の未来を作る為につながっていくような話に持っていかないと、もったいないんじゃないのかなと思います。

例えば今後、福岡市はアジアのダイバーシティをどのように取り込んでいくのか、何を強みとして飛躍を図っていくのか。コンテナヤードなどを含む港湾施設もあるんですけども、福岡市はこれからどの機能を持つ都市を目指していくのか、しっかりとして長期戦略をもって議論して行く必要があると思います。福岡県全体での福岡市の未来を見渡す中で、物流機能をどこに集中するのか、海の物流と空の物流機能も含めて、今しっかり考えるときに来ているのではないのでしょうか。福岡の歴史と現状を考えたとき、福岡市はやはり「知のセンター」としての機能、そして文化やスポーツ機能を強化すべきではないかと考えます。そういう意味でのアイランドシティの未来像を描くなど。福岡市はこれから何を目指していくのかという大きな方向性がある中で、アイランドシティの未来像を描く、そういう事が重要ではないかと思うのです。長くなってすみません。

今日はそもそも論と感想をまず述べさせていただきました。

【出口委員長】 はい、ありがとうございます。

まず土地処分の実務的な課題を解決するという発想から進めるのではなくて、もう少し大きなシナリオを描いてこの議論を進めていくべきではないのかということでした。このフォーラムは最終的には提言という形でまとめますので、その提言のまとめ方の枠組みについてのご意見をいただいたと思っています。

よろしくをお願いします。はい、どうぞ。

【貫委員】 私はもう少し現実的な立場から物を言わせていただきますと、今、住宅ゾーンというのは、価格も安いし、結構順調に売れていっている。問題は複合・交流ゾーンと新産業・研究開発ゾーンがなかなか売れないということです。原因は土地が高過ぎるということだろうと思うんですけども、それを克服するためには補助金の問題も一つありますし、もう一つは、この土地を買った場合に将来値上がりするとか、あるいはここに企業立地した場合に収益が非常に上がるというビジョンみたいなものがないと、なかなか投資がないのではないのか。

そういう観点から見たときに、今ここの住宅ゾーンに関してはいろいろな環境整備その

他たくさんあるんですけども、複合・交流ゾーンとか新産業・研究ゾーンに対しては絵画的な記載はあるんですが、あの場所でないとできない、ここの機能を生かしてどうするというのがちょっとうまく見えてこないというのがあると思うんですね。

今ちょっと話がありましたけれども、あそこが一番の特色は、やはり博多港という存在ですね。横の港ゾーンは非常に高度な機能を持っていますが、それも将来性がどうなるのか、その将来性がこっち側の住宅ゾーンといいますか、こちら側のほうにどういう影響を与えてくるか、そこら辺の姿を描いてやることが一番必要ではないかという気がしております。

特に今までは太平洋側がアメリカを向いて非常によかったんですが、アメリカがだめになりまして、今や日本海側が非常に脚光を浴びている。先週ちょっと講演会で聞いたんですけども、ウラジオストクでも売りに出ているそうです。これを日本が購入して整備をして、日本からあそこに荷物を送り込めば、ソ連、それからヨーロッパまでシベリア鉄道で持っていけるということで、その受け皿港として秋田港が今は整備されているというような話を聞いているんですね。それは博多でもいいじゃないかと。だから、日本海をどう利用するか、博多港をどう活用するかという観点から考えたときに、ここにこういう企業が立地すれば非常に将来がありますとか、そんなビジョンをぜひかいていただいたらどうかと思っております。

【出口委員長】 どうもありがとうございます。はい、どうぞ。

【甲斐委員】 本来これは1回目に私は出すべきだったかもしれません。これは言わずもがなで、皆さんわかっているとおりが、今回の大震災が起こって、これからの30年間に東海地震と南海地震が起こる確率が80%から90%ある。それに首都直下型の地震があるとされています。そう考えたときに、日本のあらゆる機能は分散されなければいけないし、当然分散されてくるでしょう。その受け皿が九州であり福岡であり、その場所を提供できる、そしてそういういろいろな絵がかけるのがアイランドであると思います。配布資料の2ページ目ですかね、3ページ目ですかね、アイランドシティの位置づけとありますが、その位置づけは大きくが変わってくるのだらうと思います。

第3回目で港と空港を一緒にやるということですが、大震災を考えると間違いなく日本海側の港が絶対要るわけですね。その機能の一番はやっぱり博多港です。そして、博多のまちが、そういう機能を果たすようになったときに、貫委員とか土屋委員達が検討されています道州制・九州府の首都としての福岡・アイランドシティという位置づけになってい

くのだろうと私は思います。金印からわかるように、日本の歴史2,000年の中の徳川幕府の鎖国までの1,500年、博多が海外との窓口だったわけです。今回の地震で地方に機能が分散されるべきだということと、京浜港、阪神港が絶対安全かということとそうでもないという中で、そういう機能がまず港に求められ、それとあわせて、都市の部分というのが出てくるのだろうと私は思いますね。

7月29日の西日本新聞主催で、「辛亥革命から100年、孫文を支えた九州人」というフォーラムがありました。そのときに、香港からジョナサン・チョイという新華通商の総裁も来て、それに孫文と関わりのあった長崎・熊本・福岡3県の知事と九州国際化推進機構・九州日本香港協会会長として石原さんとでパネルディスカッションが行われました。最後に3人の知事から観光メインだったこともあるのですが、「各県じゃない。九州だ」ということをそれぞれの言い方で言われました。あれを聞いていまして、私はこのアイランドもそういう位置づけになるのではないかと思いました。そして同友会、九経連、を始めとした九州の経済界、それと市民に対して、今までと違うステップに立つアイランドをもう少し広報していくことが必要だろうと思いました。

時期を同じくして香港のファンド・金融機関が今、10兆香港ドル（100兆円）以上を今抱えているとの記事のある新聞で見ました。この円高と日本の税制と、それと彼らのリターンの求め方といったときに、非常に難しいと思うのですけれども、このアイランドを全部好きなように使ってくれと外資に言ったら、この厳しい中でも買ってくるだろうと思います。それぐらいのアイランドであるということです。

青木委員が今言われましたが、私もアイランドシティの都市機能と、それと福岡市全体を見たときの都市機能と二通り考えてみました。アイランドシティの都市機能は「住みたいまち」、「働きたいまち」、「あそこだけは一回行ってみたい・人のあつまるまち」の三つに分けられる。

そうしたときに、事務方の皆さんが非常にご苦労されて、いろいろな書類をつくられていますが、まあ産業の集積というのは現実的にはこういう形になるのですが、そのベースとなるアイランドの位置づけの前段のステータスというのが少し変わってくることを考えれば、港の整備、空港の増設の問題、それから地下鉄の延伸・交通インフラの問題等考えれば考えるほど福岡市全体の都市機能をどうするかという方向に行ってしまう。

いろいろな人にアイランドシティどう思うかと聞いてみたら、「土地が高い」「ちょっと不便」と言う人がいますが、市民に対して、経済界に対して、ステージの変わったアイラ

ンドシティについての発信をしていって、もう一回アイランドの仕切り直しをしていくべきなんだろうと私は思いましたね。

以上です。

【出口委員長】 どうもありがとうございました。

今出された意見を少し整理しようかと思いますが、ではその前に、青木委員。

【青木委員】 済みません、せっかく今、甲斐さんがいいお話をしてくださったので、さっき言い忘れていた部分と、それから今の甲斐さんの話につながる部分をちょっと補完をさせていただければと思います。

今、福岡市を見渡したときに、新しい博多駅ができました。それから天神地域のいろいろな整備も進み、ベイサイドもリニューアルし、キャナルシティーもリニューアルし第二キャナルも間もなく完成されます。しかし、現状を見渡しますと、それぞれが点として存在し、人の流れがうまくできていないので、どうしてもそれぞれでパイの奪い合いになっているように見受けます。どちらに人がいっぱい集まると片方が空っぽになる、一方が栄えるともう片方が衰退する。このような状態が続く限り福岡の未来はないと思うのです。だから、福岡の中だけとか、九州の中の福岡だけとして考えるのではなく、もっと日本の外から人を呼び込めるような福岡を目指していく必要があると思いますね。今、日本の経済がどんどん縮小し、日本ではものが溢れる状況の中で、日本の消費者はもう物を買わない。でも、商業施設はどんどん作られている。ですから、パイの奪い合いになるのです。

だけれども、先ほどお話がありましたように、九州の中での福岡、さらに日本の中での福岡、さらに日本の中での福岡の機能が備われば、間違いなくアジアの中での福岡としての存在価値が出てくるはずですよ。そうなれば、アジアや世界中から人々が福岡に集まってくるようになります。東京などの太平洋に面した時代が今ほとんど終わりつつある中、これからアジアの時代の中で、福岡の重要性が増してきていると思うのです。やはりアジアとの近さとか、歴史や文化などのつながりとか、それらのことが生きてくる時代がやってきたのではないのでしょうか。アジアとの真の連携が実現してこそ、この地域が活路を見いだすキーワードだと思います。

そのような状態の中で、アイランドシティを貴重な財産としてを生かすためには、先ほど申し上げましたように、10年後、20年後、30年後に完成する福岡の未来像を実現するためにどういう都市が生まれてくるのか、そういうところも含めて、このアイランドシティの活用というか、未来を考えなくてはいけないと本当に思うのです。大変な話なの

かも知れませんが、福岡にとっては非常に大事な事だし、夢もある話だと思います。リスクも当然あると思いますが、内外の英知と力を呼び込んでチャレンジする事が必要かと思います。日本国内で大変なら、アジアから——香港や台湾やシンガポール、マレーシア、中国大陸などの資本と頭脳も含めてアイランドシティ呼び込んで来る。オープンな福岡を目指す。多分そうしない事には福岡はこれ以上の飛躍はあり得ないと思うんですね。

日本の経済全体がどんどん萎縮していく中で、これからはやはり外のダイナミズムを求めない道はないと思いますので、福岡市内だけで小ぢんまりとして議論しても、展開、展望は広がらないと思うのです。ですので、もっと広い視点を持って議論し、この未来フォーラムが少し夢と希望、そしてチャレンジ精神を持って望むことを願っています。

【出口委員長】 市長さんのほうからも、夢のある話をぜひ未来フォーラムでしてくださいと言われておりますので、お願いします。

よろしいですか。

【貫委員】 今のはよくわかるんですけども、でも、それをこのアイランドに全部担わせるのはとても厳しい話でしょう。それそのものは福岡市や福岡県の行政全体の話であって、今はこのアイランド一つでさえ開発する力がないんですよ。その開発できる力をどうやって呼び寄せるかということがメインであって、おっしゃることはそのとおりなんですけど、それを全部ここに記載して、今この状況の中で、何も新しいパワーが出てくることはない中でそれを要望しても、おそらく20年、30年かかる話だと思うんですよ。ですから、現実的にこの土地を活用することによって少しでも福岡市の機能がアップするような方策を考えていかないとちょっとまとまらないかなという気がするんですね。

【青木委員】 ごめんなさい、おっしゃることは全くそのとおりだと思いますが、私が申しているのは、今の福岡全体をここで一度に議論するというのではなくて、福岡の未来像を持った中で議論する必要がある、アイランドシティの土地活用だけに焦点を絞って議論しても、出口が見つからないのではないかという意味でございます。

【出口委員長】 では土屋委員、よろしく申し上げます。

【土屋委員】 青木委員が言われたこととほとんど同じとらえ方をしております、経済界やいろいろなところで、福岡のあり方、あるいはアジアにおけるポテンシャルをどう生かすかというようなことを議論しています。実は私は福岡商工会議所の代表で来ておりますが、商工会議所のほうも都市政策委員会というのが3年前にできまして、3年かけて

一応、10年後、20年後の福岡のあるべき姿というのを答申できるところまで持ってきております。いずれこれは福岡市のほうに提言という形で出るのではないかと思いますけれども、いろいろなところで福岡の将来像について検討段階にあると思いますので、ぜひ福岡市のほうで集約していただいて、福岡市のあるべき姿、その中でアイランドの位置づけをどうするんだというつなぎ方が重要ではないかと思っております。

それで今日、私はこのアイランドシティ・未来フォーラムの委員として、都市政策委員会的一端を踏まえた上でちょっとまとめてまいりましたので、配らせていただいでよろしゅうございませうかね。

【出口委員長】 資料を用意していただいているんですね。資料をお配りさせていただいてよろしいですか。委員から口頭でご説明していただく補足資料として了解いただき、配布してもらいます。

【土屋委員】 勝手に5分ぐらいで説明させていただきます。おおよそ商工会議所の意見が入っているというふうにご理解いただいたらと思います。

ここに書いていますのは、まずアイランドシティの都市機能を考える上で、福岡市の都市機能の強みを明確にするのが非常に重要ではないかということで、六つ挙げております。

まず第1にアジアへの近接性、ゲートウエーとしての陸・海・空の利便性があるわけですが、これは九州、西日本の各県、各都市を後背地とした、人・物・金あるいは情報を集める機能、あるいは配る機能ということになるかと思えます。

それから2番目が、若者、国際人材が集う学研都市ということで、大変優秀な大学がたくさんございますし、留学生もたくさん集まってきているということで、知的な創造型産業を核にするというのが一つの福岡の強みではないか。

それから3番目が、自然に近接したコンパクトシティということで、海とか山とか川の恵みがある、それから職住近接した暮らしやすさは海外からも評価されている。

それから四つ目は、安全・安心・オープンマインド、あるいはきずなです。アジア太平洋博からこども会議というのが続いていますけれども、そういった各国とのきずなも含めまして、強みを持っている。

あと、文化都市であるとか、歴史・文化の素材が質・量ともにたくさんあるということも強みではないかと思えます。

この1から4が、アイランドシティの強みとして生かすべき項目に入ってくるのではないかという意味で、太文字にしております。

アイランドとしては、福岡の強みを大きく育てて、アジアの魅力ある中心都市として認知されるように、人・物・金・情報が集まる貴重なエリアとしての位置づけをすべきではないかと思っております。

そのための諸施策あるいは仕組み、思い切ったインフラ投資というのが、そのエリアの優位性をつくるのに欠かせないのではないかと。特に今、総合特区制度が募集されておりますので、県と一緒にこれの認定をとって、そういった諸制度をフルに活用して、入居者や立地者の魅力的な税制などのインセンティブをつくることは、魅力をつくるための極めて重要な施策になろうかと思っております。

それから、前回も申し上げましたように、投資の回収は不動産の売却というような形ではなくて、やはり都市圏全体の税収で賄うぐらいの長期的な発想が必要なのではないか。将来的には、先ほどおっしゃいましたように、福岡が地域主権をリードする道州制の先駆けとなるようなシナリオを描いていくべきではないかということで、具体的なイメージ、これはほんとうにたたき台の案でございますが、例えば国内外の研究機関、開発型の企業あるいは戦略産業のアジア展開の基地とすると。物流機能はございますし、あとマーケティングとかエンジニアリングセンターみたいな機能をここに立地して、フリーゾーンとしての規制緩和や税制・金融面でのサポートをする。そのためのワンストップサービス機能を備えたエンジニアリングパークみたいなものを建設して、そこに誘致するということがいいのではないかと思います。

それから、アジアの中心にふさわしい10万平米クラスの大規模コンベンション及び展示場を設置して、学術交流、産業交流あるいはビジネス商談の拠点とするというような大きな核づくりが必要ではないか。これは別にアイランドではなくてもこういう話が出ているわけですが、今白紙に近いアイランドに持ってくれば、すぐにでも着手できると思っております。

それから、海外からの呼び込みでビザの便宜を図ったり、移住者に対する住環境、あるいは外国人の子供の教育機関を整備するといったことも必要になってくると思います。

それから、福岡県も今、一生懸命ベンチャー事業の育成をやっておりますけれども、一緒になってベンチャー企業とか中小企業、海外も含めました中小企業が集まってきて、その成長センターとしての海外投資家も呼び込む仕組みをつくるという必要があるのではないかと思います。

それから、アクセスですけれども、高速道路の早期乗り入れはもとより、鉄道系の実現、

あるいは航空便が非常に重要なファクターですので、アジア路線の拡大と滑走路の増設の早期実現といったようなことが求められると思っております。

裏側に、参考までに台湾の事例を書いております。台湾が最近非常に元気があるんですけども、特に中国との取り組みをベースに、戦略的にいろいろなシステムをつくっております。南港ソフトウェアパークというのが台北の10キロのところにございまして、ここに海外からもたくさんの企業を誘致しておりますし、隣接していわゆるコンベンションセンター、14万平米ぐらいのものを集めておりまして、ここだけで経済効果約2兆円のビジネスを創出しているという事例がございます。こういったものを参考にしながら、アイルランドシティの全体像を煮詰めていったらいいのではないかとということでございます。

済みません、お時間とりまして。ありがとうございました。

【出口委員長】 どうもありがとうございます。わざわざレジュメまでつくっていただきまして、お考えを整理していただきました。

これまでの30分ほどの議論を整理させていただきます。まず冒頭、伊東委員のほうから頭出しをしていただきましたけれども、今日は都市機能についてということで現状のご説明がありましたが、このフォーラムはあくまでも未来フォーラムですので、この現状の資料を補足していくような、このページをいくつも埋めていくような議論だけをする場ではないということをまずはご確認くださいということだったかと思えます。ですから、本日の資料ペーパーをスタートにしながらも、この資料の内容について議論するのではなく、もう1段か2段上に上がった上位概念のところから整理していくべきではないのかということが、伊東委員ほかの委員の方からの問題提起だったかと思えます。

そのときに、この資料ペーパーにあるように、産業ゾーン、複合・交流ゾーン、住宅ゾーンといったように、ゾーニングを区切っていて、ゾーニングごとにそれぞれの土地利用をどうしようかという課題に対して、日々市役所の担当の方々が奔走されているわけです。ここでは、そういう発想ではなく、ゾーニングによる区分とは別にテーマを幾つか設定して将来像を議論するべきではないだろうか。例えば、そのテーマは文化であるとか、あるいは居住環境であるとか、あるいは新産業もしくは営みといったものですね。それからロジスティックス、物流もありますか。大きくはその四つぐらいが、これまでに出てきたカテゴリーではないかと思えます。そのテーマとコンテンツをもっとこの場で議論するべきではないだろうかというご意見だったと思えます。

次に、理想的には、それぞれのテーマの相互関係が深まり、相乗効果が上がるプログラ

ムがさらに見つかればいいだろうということです。物流施設などの港エリアと居住エリアとが隣接しているので、例えば、港エリアを子供たちや住民の方々の学習の場にしていくとか、お互いに空間横断的あるいは機能横断的な相乗効果が上がることで、その街に楽しく住むことができ、ほかの街にはない魅力を持つ複合地区に仕立て上げていくプログラムを考えていくべきではないのかというご意見がありました。

それから、第三に、これは青木委員からいただいた意見ですが、アイランドシティだけを視野に入れて考えていたのではだめでしょうと。やはり福岡市全体を視野に入れ、20年、30年後の未来を考えていく必要があります、要するに空間的にもっと広がりを持ち、時間軸でもっと長期に及ぶ構想することが、この未来フォーラムに「未来」という言葉が付いていることの意味ではないでしょうかというご指摘だったと思います。その際に、少なくとも博多湾エリア全体の未来像の中での位置づけを考える必要があるということですね。

それに関連して、今、福岡市では、第9次総合計画の策定の作業に着手されていて、毎週のように市民公開フォーラムを打っていらっしゃるけれども、おそらくその総合計画とも関連してきますので、よろしければ事務局から後ほど、今検討されている総合計画とこの未来フォーラムとの関係について、お考えをいただければと思います。そういった市全体あるいは博多湾エリア全体の未来像の中で、このアイランドシティを貴重な財産としてどう位置づけるかというのが課題である、それをぜひ今後、この提言の中に盛り込んでいくべきではないだろうかということですね。

4点目として、甲斐委員からは、21世紀の日本の展望をきちんと把握し、ある程度予測した上で考えるべきではないかと。特にこれからの国土計画、これは最近法律が改正されて国土形成計画と言っていますが、その中でリスク分散論というものがある、議論の俎上に乗ってくるだろうと。その時に福岡はどういう位置づけになるのかといったような考え方で、21世紀の展望を背景とした将来像のシナリオを描いていくべきとのお話がありました。

さらにそのときに、これは非常に大きなシナリオと言えるかもしれませんが、日本海沿岸で带状につながっていく連帯と九州全体の連携、更に福岡あるいは博多の長い歴史の中での港エリアの位置づけ、そういった空間と時間の観点から将来像のシナリオを考えるべきとのご意見をいただきました。

ただその場合、あまりにも楽観主義的な将来展望に基づいてこの未来フォーラムの議論

を進めていきますと、落とし穴に陥ってしまう気もいたしますので、楽観主義的にまとめるということではなく、むしろこのアイランドシティのアドバンテージを徹底的に洗い出してみるという観点で、いろいろなシナリオを描いてみる、というようにとらえるのがよろしいかと思えます。

それから、最初の話に戻りますが、このアイランドシティの文化、居住環境、営み、ロジスティックスといったテーマについて、それぞれのコンテンツを議論していただきますが、その時にそれらが集積していくための支援策もきちんと考えるべきだというのが貫委員のお考えと思えます。そのときに、二つあって、インセンティブとビジョンがないとかなかなか事業者の方々にこの場所に立地してもらえないということです。当然、ほかの地区との相対的な評価でこの地区を選定して立地してくるわけなので、まずはインセンティブとビジョンが必要だろうと。そのインセンティブとビジョンに基づいて、助成金なりの実効力のある施策を打ち出していくべきではないかというご意見をいただいたと思えます。

さらに、土屋委員からはレジュメをご提示いただき、福岡市の都市機能としての強み、生かすべき強みと、強みを連呼していただいたご提案をしていただきました。これもおそらく計画どおりにこのアイランドシティの土地利用が進むことを前提としたときの強みととらえてよろしいのかと思えます。この強みを発揮していくためには、何か背中を押してやるような方策が必要かという気がいたしております。更に、最後に具体的なイメージで、例えば高速道路の乗り入れの早期実現はもとより、鉄軌道系の導入実現を図るといった公共交通機能の強化、要するにアクセスの強化という点も強調していただいております。これも必要であれば、後ほどまた議論したいと思えます。

どうぞ、甲斐委員。

【甲斐委員】 福岡市全体からアイランドシティに限って考えてみました。まず土地を買ってもらう、賃貸ができるということも必要だろうと思えますが、先ずは民間の進出を誘発しないといけないと思えます。資料に他地域の公共的施設の立地の割合が出ていますが、もう少し前広に公共投資をして引っ張って行ってやらないと、私はこのアイランドについては難しいのではないかという気が非常にしています。

又福岡市だけじゃない、福岡県のアジア特区もありますね、県と福岡市と国がばらばらに考えるのではなくて、もう少し国と県、県と市で、考える必要があると思えます。

次に特にコンベンションとか人が集まる仕組みをつくったときに、大量に、しかも定時で運べる仕組みが要るだろうと思えます。今までいろいろな人に何で鉄道ができないのと

聞きますと、「1万8,000人の住居と1万8,000人の就業者では、まずペイしない、これははっきりしている」ということをよく聞かされました。けどほかの国、国内の他地域では、まず先に道路を通して、地下鉄なりを通してます。今鉄軌道をアイランドに持ってくるとしたら、何人だったらペイするののかというのが私は一番聞きたいですね。

3月11日の震災後の14日、私はアポイントを入れていましたから蘇州と無錫と太倉港に行ってきました。上海虹橋には、昔のぼろの空港から新しい国際空港ができて、その横に、皆さんもご存知だと思いますが、ものすごい新幹線の駅ができ、その下に地下鉄が乗り入れており、4時三十何分の蘇州の駅を出てから、虹橋駅に着いて、地下鉄に乗りかえて、5時45分には福岡市と福岡貿易会で運営しています上海事務所に着きました。又去年4月に重慶に行きました時、空港の横に橋脚がぽつんぽつんと建っていました。今年の6月に行きましたらモノレールの軌道が、空港から町の中につながるぐらいになっていました。まあ、今の日本と違いはありますが、どれくらい的人数が動いたら地下鉄ができるのか教えてもらいたいと思います。税金の先食いと言ってはおかしいですけども、地下鉄なのかモノレールなのかわかりませんが、先ほど土屋委員から出たような形での鉄軌道が欲しいと思います。

将来の福岡は福岡空港は少なくともアジア各都市との直行便が出ている、そしてそこから各場所に地下鉄で来れるとなりたいものです。

それともう一点。これは今までの話とは関係ありませんが、例えば青果市場が出てきたときに、魚市場、漁港とかをセットにして、あそこで道の駅を毎日やりながらイベントをやる。そこへ近隣の町の人が毎日そこに新鮮な青果・果物・魚介類を買いに来る、そういう仕組みで常にだれかがまちに来るようにする。

それとか、今インキュベートの施設がありますが、最近九大、福大の留学生とか就学生が卒業して、小さな貿易会社を興し、中国と貿易をしたいという人が貿易会に相談に来ています。国内外問わず、そういう若い人が起業しやすいまちにするとか、一方大手の商社とかメーカーに勤めて、海外、東京、関西で働いていた人をこちに引っ張ってきて、彼らが50代で起業できるような仕組みをつくって、そういう人たちが働き、にぎわえるようなまちづくりとか、そういう仕組みが一つずつできたらいいなと思います。

【出口委員長】 どうもありがとうございました。

まず、最初にいただいたご意見というか、これはご質問かもしれませんが、先行的な公共投資が必要だろうと。これは、やや直感的にと言われてましたけれども、どうなんです

よう、今日資料で見せていただきましたほかの参考事例、神戸や横浜、東京などでは、例えばどのような先行的な公共投資がされているのかということが、もし、おわかりでしたら教えていただきたいんですけども。おそらくそういう前例を参照できれば私どもも意見が言いやすいのかと思います。

これは、鶏が先か、卵が先かということで、先行投資的に、例えば公共交通を導入するなりの公共投資をしていくのか、あるいはある程度の条件が整ったところで、例えば居住人口が何万人以上とか、従業者が何万人以上、延べ床の面積が何平米以上のときに、初めて公共交通なり、インフラ整備などがさらに上のレベルまで進んでいくのか。だとしたら、それは一体どの辺がクライテリアになるんでしょうかということですね。どれぐらいの集積が進んだら、例えば一般的な公共事業として投資されていくのでしょうかというようなご質問が冒頭に含まれていたと思いますが、この点について、何か事務局のほうからございますか。

【港湾局（馬場）】 他都市の事例でいきますと、鉄道という話が出てましたけれども、鉄道に関しては、横浜、神戸、それから、東京も、町の熟成に合わせてということもありますけれども、町の熟成に先駆けてつくっている部分も実際にあるかと思います。済みません、ちょっと時系列的に追った資料がございませんので、整理させていただいて、またご報告させていただきたいと思います。

【出口委員長】 どうぞ、伊東委員。マイクをちょっと。

では、マイクが来る間、ちょっと私のほうで補足というか。百道もよく前例に挙げられますが、百道には結局新交通システムは入れられなかったですね。ヤフードームの野球の試合で満員だと3万人ぐらいの方が来ますが、それぐらいのパイがありながら、軌道系の公共交通を入れずに運営してきたという前例があります。これを、果たして良い例として見るのかどうか、評価が分かれるところかと思います。その辺についても、もし、ご見解があれば、次回にでもお聞かせいただきたいと思います。今日の参考資料に出ている百道の事例は、現状のある一時点のデータです。百道は既に埋め立て事業が完了してから20年ぐらいたちますが、この20年間、一体どういうふうに街が成熟してきているのでしょうか。例えば、従業員数の変化や、税収がどう年次を追って上がってきているのか、あるいは上がって、また下がってきているのか。もし、下がってきているとしたら、その要因は何なのかということですね。

どうも、私の印象としては、福岡市の場合、こう言うと大変申しわけないのですが、埋

め立て事業が終わると一仕事終わったという感じで、その後の街を育てるマネジメントがきちんとしてないような……。もっとそれに力を入れたら、百道はもっといい街になったのではないかという気がしますし、つくることだけではなく、街をよりよくしていくマネジメントが必要ではないかと思います。その辺、もし参考になることがありましたら、教えていただきたいと思います。

済みません、伊東委員、どうぞ。

【伊東委員】　　ちょっと今の委員長の言葉とつながるかどうかわかりませんが、前回、私が提案させていただきましたコンベンションセンターと日本海沿岸文化経済圏の中に位置するアイランドシティのビジョンというのが話題になっておりますので、ちょっとその辺りで、本意というものを述べさせていただきます。

コンベンションセンターというものが、なぜここに向いているのかというのは、私は県のほうでその策定にかかわらせていただいていたけれども、結局交通、船舶や航空機分野でのハブ機能というものがアジアの他都市に移ってしまった現在、福岡という町がアジアの中でどういう位置で重要性を占めることができるかという中で、やはり情報というものは欠かせないものだと思っていますね。何でコンベンションセンターが情報のハブ機能というものを持つのかといいますと、コンベンションセンターを見本市会場とだけ考えると、そこには非常に狭い意味での集積しかないわけですが、実は、物についている情報を集積、管理、発信することができるということなんです。結局物産というものにはすべて情報がついているわけですから、それを拠点整備をして統合し、物理的にもネットワーク的にもロジスティクスというものを管理しながら紹介するということが、アジアもしくは世界におけるすべての経済的情報をこの福岡というところが得ることになります。

また、日本においては北前船の歴史がありまして、この前も平清盛以来の博多港の整備の話からしていきましたけれども、そのような歴史的な外交、物資、物流に関するハブ機能が福岡にはもともとある。それが潜在的な大きな資産でもあります。そして、もう一つは、アジアが今日本に何を求めているかということ、その大きな対象はやはりコンピューターグラフィックス、アニメを中心とした日本のデジタルコンテンツなんですね。日本のコンテンツ、例えば中国においては上海メディアグループが、今非常にアニメに特化した事業推進をしていますけれども、彼らが参考にして、またあこがれているのは日本、そして、つながりたいのが日本であります。そして、例えばシンガポールのサンヤンやテマセクと

というような、いわゆる新世代の人材育成機関というのは、医療とアニメという一見結びつくこともないようなものを、一つのCG再現技術、バーチャルリアリティの再現技術というところでつなげて、複合的な人材基盤を作り、産業化しようとしています。

そういう中で、例えばコンベンションセンターがデータセンターと一緒にになるとか、メディアコンテンツセンター機能を併せ持つとか、ということが福岡の大きな可能性につながって行くと思います。例えば、神戸の阪神淡路大震災復興のときに産業再活性化事業委員長として提案したんですが、「デジタルコンテンツポート」という、私がつけた名前でもNPOもつくっていますけれども、それはコンテンツを流通させるコンテンツ・ロジスティクスというものが、これから非常に重要になってくるだろう、ということです。日本が将来他にぬきでた産業として成長させることができる可能性があるものは、物理的な有形の物だけじゃなくて無形の物、つまり情報そのものではないでしょうか。その有形と無形の物を体現するような新しい形のコンベンションセンターが福岡にできれば、世界にとって独特の位置を占めることになると思います。

また見本市会場だけでは、多分公共投資の補助金というのは出ないはずで、例えば文化機能や県立美術館や、さまざまなメディアセンター、そういうものをハイブリッドにした形の新しい施設概念とネットワーク概念をもたらすものが生まれればその面での可能性もある。特にデータセンターということで、例えば来週から出口先生のご同僚の東大の隈研吾さんと一緒に提案型の展覧会を丸の内の丸ビルでやるんですが、その丸ビルでの三菱地所のもう一つの営業基盤は実は地面の下にあって、地下に広大なサーバー会社をつかって、そこで全国のケーブルテレビのコンテンツをためています。このように、今は、物が表象するところと、そのもとになるところが違って、その両方をとらえていかなければいけない中で、福岡にコンベンションセンターやEXを整備し、しかもそれがアイランドシティにあると、対アジアに向けての非常に大きなインパクトがある。

もう一つは、この三つの異なったセンター地区、グリーンベルト、住宅ゾーンについて何か一つのテーマを考えるに当たって、この住宅ゾーンをある種の産業圏としてとらえることもできるのではないのでしょうか。それは住民が何か消費としてお金を使うということではなくて、先ほどちょっとだけ蓄電池の話が書いてありましたけれども、これは前身の委員会でも話したことなんです、今蓄電池の中で一番可能性があると言われてるのはキャパシタ、つまりプラスチックに帯電させる充電技術です。これは日本が一番進んでいて、アイランドシティの完成していないところの地下にこの蓄電池のプラスチックを埋め

る。しかし、このキャパシタの蓄電池というのは、今はまだ個体差が大きい、つまり充電の容量というのが一定できないというところに弱みがあります。しかし、中国は上海万博のときに、この蓄電池を使って、会場を巡回するバスをつかって、蓄電池技術を用いた電気自動車の開発に一步先んじています。こういうことは日本ではできていません。だから、そういう意味では、大きなバス会社を有する福岡、そして、このグリーンアイランドの中にそのような実験的な要素を組み込みながら、住民の幸せと日本の産業の将来とを重ね合わせるようなハイブリッドな考え方をして行くというのが重要だと思います。二歩院で一番幸せな居住地域は一番先端的な場所であるべきでありますし、そうであるはずで

私、今の企画のままでは、ここに産業を誘致するという事は非常に難しいと思っています。というのは、先ほどいろいろ挙げられたマイナスのポイントはすべてデメリットになるかもしれないからです。しかし、このようなものができるという大メリットと、できつつあるという大メリット、それが完成途中であるということは新しい可能性を無限にもたらすでしょう。そのためには、この三つのゾーンを持っている異なったフィールドをこれからつなげていかなければいけない、その三つが一緒になって人間の幸せを追求していかなきゃいけない、そういうものが産業の将来でもあるんだという、その産業の組み合わせと人間の生活のハイブリッドの企画提案があれば、ある意味異なったナパバレーとしての要素になるというふうに思っております。

【出口委員長】 どうもありがとうございます。

ちょっと整理いたしますと、まず、コンベンションセンターについてのお話をいただきましたが、コンベンションセンターというと、私どもどうしても都市の中でイベントをやる、イベント機能という発想しかないのですが、伊東先生のお話は、コンベンションセンターをつくるということは、情報が集まるハブをつくるという発想だと。福岡の場合は、既に物流のハブがあり、まだ不十分かもしれませんが、港湾、あるいは空港という物流のハブがあります。それとうまく組み合わせることによって、あるいはコンベンションセンターとほかの機能とを組み合わせる——データセンターというふうにおっしゃってましたかね、データセンターの機能と組み合わせることによって、集まった情報を産業化させていく拠点としてコンベンションセンターをとらえるべきとのアイデアをいただきました。これは、先ほどの土屋委員のアイデアともつながってくる話かと思えます。

それから、この三つのゾーンで発想するにしても、この三つのゾーンをつなぐテーマが必要だろうとのご指摘です。資料の2ページ目にグリーンアイランドの創造とありますが、

このグリーンアイランドという言葉の中身が我々もよくわからないので、グリーンアイランドという言葉の中身を、さらに精査するというか、もう少し深く掘り下げ、この三つのゾーンを貫く将来像を考えていくのが、このフォーラムの役割である、といったご指摘だったかと思います。ありがとうございます。

それでは、村田委員、お願いいたします。

【村田委員】 住民代表の者なんですけれども、ここでいろいろ大きな地図というか、絵を描いて、それから話を掘り下げて、もっと具体的な話をしていくというふうな形だと思うんですけれども、私は、もう今住んでいるわけで、30年後も大事だけれども、1年後、2年後もすごく大事なわけです。そういう観点からちょっとお話をさせてもらいたいなと思っているんですけれども、まず、短期的な話はすごく具体的になっていくのに比べて、中期的、長期的なお話というのは、ほんとうに何かふわふわしたお話ばかりで、私はこういうのが全然専門じゃないので、こういうのをばあっと見ても何書いてあるのかよくわからないんですよ。何かすごく立派なことだけ書いてあるんだけど、結局具体的にどうしたいの、将来的にどんな町になるか、さっぱり見えてこないんですね。ちょっと私の読解力がないからかもしれないんですが、中長期的なこともある程度具体性を持たせて話を進めていかないと、例えば住民が家を買うとなったときに、すごく中長期的なことはぶれているんですね。

例えば、私がお家を買うちょっと前は、市のほうは鉄道が来ると明言されてたんですね。明言されているけれども、いつの間にか撤回されているわけです。例えば、人道橋がでて、香椎浜からぐるっと一周、すてきなランニングゾーンができますと。ああ、これはすばらしいと思ったら、今度は港の港湾機能を具体的にするために都市高速を通さなきゃいけないと。いろいろ予算を削った挙句、結局そのぐるっと一周のランニングコースの真上に都市高ができるプランになっているんですね。すごく中長期的なプランが、出てきたり消えたり、出てきたり消えたりで、結局都市高と人道橋の完全に矛盾する二つのプランが同時に進んでいるんですよ。

そういうふうな状況で、私は産業側じゃないのでさっぱりわからないんですけれども、さあ、ここに何か事業を展開したい、病院を経営したい、何を経営したい、この土地はメディカル何とかゾーンとか言われて、では、病院を1個入れるにしても、何がここにメリットがあるんだろうと。結局すごく中長期的なキャッチフレーズばかり浮いてて、何がメリットなのかさっぱりわからないまま話が進みそうな気がしています。

ちょっと話をまとめると、中長期的なことに関してももっと具体性を持たせて話が進まない、多分私たちが家を買うとか、私の親戚にこっちの家を買ったらどうか勧めるときに、アイランドシティの何がいいのと聞かれた際に、子供の教育環境がいいよとか、治安がいいよとか、今はその辺の話なんですけれども、それ以上に話が発展しないところもありますので、何かそこら辺があつたらなと思います。

【出口委員長】 非常に重要なご指摘で、居住者の立場から、あるいは不動産を購入された立場から指摘いただきましたけれども、一つには、福岡市がこれまで出してきた特にインフラ整備の計画が首尾一貫していない、あるいは計画が出るたびに内容が変更になっていて、出された計画が長期にわたってきちんと担保されていないのではないだろうかというご指摘をいただきました。

これについては、私はこのアイランドシティの計画についての非常に構造的な欠陥じゃないかと思うんですけれども、これはまさに仕組みの問題かもしれません。どなたに振ったらよろしいですかね。(笑)

【青木委員】 今回のことに関してちょっとよろしいですか。何回もごめんなさい。

村田さんのお話の続きですけれども、私が何故先ほど、30年後、20年後、10年後をとらえる中でのアイランドシティということを申しましたのは、まさにそのことでありまして、全体的未来像を見渡さないで、この1年、2年だけの現状の中でやってしまうと、福岡市の都市機能がぼつぼつと寸断されてしまうのではないのでしょうか。ですので、10年後の福岡市をどのようにしていくのか、20年後の福岡の姿はどうであるべきかをしっかり考えておく必要がありますね。それをふまえて3年間で実現できること、5年後に実現すること、そして10年後に実現する事、30年立ったときに福岡市はどのように都市になっているのか、それを踏まえたビジョンを持つことが非常に大事ではないかと思えますね。その時々ニーズだけでぼつぼつとやると、今のような点だけが存在する姿になってしまいます。

今の福岡の全体像がまさにそのとおりで、百道浜も含めて今度のアイランドシティもそうなんですけれども、結局は交通手段については、地域の住民の通勤通学ぐらいの交通は整備されているとは思いますが、外から来た人間にもわかりやすく使いやすい大動脈的な交通網が整備されているとは言えませんね。人の流れをうまく循環していくような交通の整備には全くなってないと思うのです。ですので、交通の便がよいところだけに人が流れ、そこから人が流れていかないので、結果的にパイの奪い合いになってしまっています。今

福岡市に存在する素晴らしいパーツ毎の機能を面としてリンクできるような都市を目指す中でのアイランドシティの未来像を創出することが大事ではないでしょうか。

【出口委員長】　　そういう意味からいいますと、もちろんこのフォーラムの最終的な取りまとめの中にそういった課題も含めていただいてよろしいと思います。どうでしょう。では、事務局を代表して、副市長か局長から発言をお願いします。

【事務局（貞刈）】　　総務企画局のほうからお答えさせていただきます。

お話の中でありました市全体の計画の中でＩＣがどうなのかというご指摘はごもっともなことだと思っております。

今、我々は総合計画を持っておりますけれども、年が明けて、あるいは新年度に総合計画のほうを変えていこうということで、今新ビジョンの策定をしています。そのため、いろんな論点とか考え方の整理をしていきたいということで、もう５０人ぐらいですか、いろいろな全国の有識者の方、また福岡にご縁のある方からいろいろな貴重なご意見を伺っております。それから、いろいろなフォーラムも開催させていただいて、それぞれいろいろな専門の分野の方たちから、福岡のあり方といいますか、そういうものを聞かせていただいています。そういうものを我々のほうで集約をしながら素案をつくり、そして、総合計画をつくっていきたいと思っています。

総合計画の中身は、いわゆる基本構想というものが今ございますので、改訂が必要あれば、２５年ぐらいのオーダーで今後どうあるべきかという基本的な考えを整理させていただきますし、基本計画の中では１０年ぐらいを一つのまとまりとしまして、考え方を整理すると。さらに、それについて数年の単位での具体的な事業の実施計画を立てていく、そういう作業を今年から来年にかけてしっかりさせていただこうと思っております。ただ、このＩＣフォーラムの日程とは、ちょっと間に合わないところがございますけれども、その辺はしっかり福岡市としてやっていきたいと。

今、直近で市の整備をどういう方向でやっているかということについて若干つけ加えさせていただきますと、一つは、今後どのような議論になっていくかというのはございますけれども、大きく福岡市の都心の地域と、西の地域、東の地域、そういう性格づけがあるのかなというふうに思っております。都心については、天神、博多駅、それから、まだまだ十分ではございませんけれども、コンベンションゾーンとかも含めたウォーターフロント、そういう部分については、都市再生緊急整備地区というものを、今、国のほうとやり取りをしておりますして、それについて指定を受けて、都心をリニューアルしていくといい

ますか、やっぱりアジアの中でできらりと光る都市になっていくために、都心を衣がえしていくといえますか、リニューアルしていく、そういうことをしっかり進めていきたいということがございます。

それから、西のほうについては九大学研都市が進んでおります。これは九大さんが中心になりますし、九大さんの整備に合わせて、周辺地域でいろいろな基盤整備を進めています。関連して産学連携センターでございませうとか、いろいろな今後の産業、あるいはそういうものに対するシーズづくりに資するような形にしていきたい。

それから、東のほうは今の時点ではICになっております。それは香椎パークポートとも含めて、東部の港湾の地域ということになるかと思えます。このあたりの港の整備というのは、前回のいろいろな説明のように当然必要不可欠なものでございますけれども、その中で港湾、港と隣接した今日の論議をいただいていますまちづくりの部分というのがどういうふうな整合を持つのか、全体として今言いましたようないろいろな三つの特性がある都市構造をつくっていく中でどういう役割を担っていくのかというのを、今回のフォーラムのご意見等も参考にさせていただきながら、整理していく必要があるのかなというふうに思っております。

もう一つは、国際戦略特区というのを県のほうと一緒に一生懸命進めております。その主なものは、一般的には、この中にございましたけれども、神戸の場合とかは理化学研究所とかを中心に、かなり大きな医薬産業とか、医療関係の集積がございまして、そういうものを柱にして国際戦略特区ということで、どんどん海外に向けて打って出るものをつくり上げていこうという動きになっております。我々のほうについては、やっぱりアジアに近接した地域にあるということで、地域産業というものとアジアとの関係をいかに円滑につないでいくかということで、福岡市の役割としては、特に1回目でもご説明ございましたけれども、RORO船をもっと活用して、速いスピードで、なおかつローコストでというようなところを一つの軸にしなが、北九州での環境でございませうとか、筑豊といひますか、いろいろな自動車、あるいは九大の有機ELの関係、また都心の中でいろいろな都市型のものが出てこようかと思ひますけれども、そういうものをリンクさせた形でやっけていきたい。そういう中で、一つの軸としては箱崎等の港の機能というのを大いに活用したいということで進めております。

それから、もう一つ、ちょっと長くなりますけれども、基本新ビジョン、それから、総合計画をつくる中では、今並行して福岡の経済界のほうで、福岡地域戦略会議というのを

設けていただいております。その中で、経済界中心に問題提起をされて、そこで出ていることの幾つかついて、来年度から具体的に実施していこうじゃないかという動きがございます。そういう経済界、あるいは現場の第一線で経済活動を担っている皆さんからの生の意見をうちのほうの総合計画にも反映させたいというような形で作業を進めておるところでございます。

いろいろな港の機能については、博多港の長期構想とか、お話の中で出た日本海側の拠点港の話とかございますが、そのあたりについては港湾局のほうで専門でございますので、また説明もあろうかと思えます。

今ご説明したようなことについて、必要でありますなら、また次回のときにきちんと資料を整理して、お示しできればというふうに思っております。よろしく願いいたします。

【出口委員長】 今のお話でよろしいですか。

では、小俣委員、お願いします。

【小俣委員】 小俣ですけれども、私は三つ申し上げたいと思います。

一つは、I Cと箱崎のほうを物流の港というふうに位置づけて、中央埠頭と須崎、特に中央埠頭は人の港ということになっています。それならば、今そこにあるものをすべてI Cのほうに持っていくということが必要じゃないかと思えますし、コンベンションのほうも中央埠頭のほうに今ございますから、そちらはそれによって充実すると。だから、人と物とを分けるということが1点目です。

もう1点は、立地交付金とか補助金とかのさらなる充実が不可欠だと思いますが、これは多分市民の税金だと思うんです。ここに関して、今、市の借入金が増えるのかちよつとわかりませんが、そうすると、年間の金利を幾ら払っているのか。これは市役所が払っているというよりも、市民が払っているわけで、早くしないといけない。土地のご専門もいらっしゃいますけれども、今の高値でもし土地が鑑定されているとすれば、実勢の価格がどうなのか。そのギャップが民間の方には出ていくときのリスクになるから、インセンティブというのはとても充実しないといけない。これが2点目です。

もう1点はI Cの充実、楽しさという面で、大同青果が出るという話を聞いていますので、それならば、大同青果さんだけでなく、花市場も持ってくる。ほかにも食肉とか、要するに、おいしい食べ物、一次産品が集まるようなI Cマルシェのようなことを考える。難しい問題があるので魚市場は持ってこられないのかもしれませんが、スペインで言えばバルとか、イタリアで言えばトラットリアとかいう名前の食の市場、マルシェと

というようなことをお考えいただきたい。

以上、三つをご提案というか、ちょっとお話をしました。

【出口委員長】 どうもありがとうございました。大変貴重な意見をありがとうございます。
ます。

土地のお話が出ましたので、平山委員、お願いします。

【平山委員】 平山でございます。

今、小俣委員から土地の値段がという話がありました。私がちょっと事務局のほうに確認したいと思ったのは、13ページで、立地企業が進出しなかった理由の中に、土地価格が合わないというのがありますね。これはイケア・ジャパンあたりのことですか。イケアさんは新宮町のほうに出てますが、それですかね。

【港湾局（馬場）】 済みません、ちょっと個別なことは差し控えさせてもらいますけれども、ここで申し上げているのは、企業さんの想定している価格がそれぞれございまして、その想定とはずれていたという、単純にそういうことでございます。

【平山委員】 わかりました。それから、土地の賃貸云々というのは公有水面埋立法の関係でかなり制約があるという話をちょっと事務局からお聞きしましたが、そのあたりは詳しくお話しできますか。

【港湾局（馬場）】 公有水面埋立法の適用を受けるところに関しては、何らかの制限がございますので、それについては3回目に資料で皆さんに詳しくご説明しようと思います。

【平山委員】 不動産の価格というのは、利用に応じた価格というのが出てくるわけですが、こういう埋立地というのはある程度造成原価が決まっているものですから、その中でミスマッチが起きているというお話だろうと思います。それは時間の経過とともに、地域の情勢とともに、当然ギャップは埋まっていくだろうと思っています。

ちょっと視点を変えまして、私は、グリーンアイランドということで、エコも含めて、エネルギーも地産地消というご説明がありましたけれども、不確かな情報ですけれども、千葉県のある都市でゴルフ場を開発して、非常にエコタウンみたいな、地産地消的なところがあるそうです。伊東先生ご存じですかね。柏市か何かあっちのほうでつぶれたゴルフ場を……。

【出口委員長】 今、私が勤めている柏の葉地区でそういう取り組みをしています。

【平山委員】 ああ、そうですか。そういう話をまねるんじゃなくて、ほんとうに参考にして。

先ほど村田さんがおっしゃいましたけれども、住んでいる方の、住民の合意をうまく取り入れないと、まちづくりは絶対できない。私は福岡市の早良区のある大きな住宅団地に住んだことがあります。最初は陸の孤島と言われて、非常に不便でした。人間が多くなると生活利便施設ができない。その中で、市が誘導するために、最初から分譲するんじゃなくて、一定の期間だけは定期借地権で土地を貸すなりで建物や施設を建て、ある程度たったら、買い取るもよし、別の方法でもいい。資金的なスキームができなければ、そういう流動化のスキームを使いながらやるということも可能です。

問題は、黙っていたら、何にも前に進まないということです。このアイランドは非常に、お話の中であるように国際性とか先端性とかエコという。特に医療も高度ですし、また、産業は、百道もそうですけれども、物をつくり出すというのはなかなか難しいと思いますので、知的産業を集積し、いろいろな情報をそこに集めて発信したりする。これはあまり大型な投資がなくてもできるんですね。こども病院というのはとっても魅力的で、中国だって一人っ子政策といいながら、子供は産まれてくるわけですね。難病などについて福岡市のこども病院が日本の先駆的な役割を果たせば、すばらしいところになっていくと思います。

売れないから、売るためにはどうすればいいか。それは簡単です。安くすれば来ますが、それでは何のためかわからない。まちづくりという、やっぱり一つのきちっとした柱が整ってなきゃいけませんので、その中で、土地は売るだけじゃなくて、使うために借りられるようにする。中国なんか70年の借地ですからね。所有権を切り売りするという発想をしていけば、何十年分売っているんだというぐらいの発想でいけるんじゃないか。ちょっととりとめのない話になりました。時間がないので、また次の機会にします。

【出口委員長】 ありがとうございました。

大きく2点あったと思います。一つは、先ほど千葉県柏市の柏の葉地区の例ですが、実は、私はここのキャンパスに勤めています。柏の葉地区は、アイランドシティと同じように、某不動産会社を中心に開発を進めているところです。やはり、既に住み始めている住民の方々の協力なしにはまちづくりはできないということで、アーバンデザインセンターをつくっています。私、そこのセンター長を仰せつかっていますが、そこは住民の方々の参加の拠点、そして新しく開発をしていく計画づくりの拠点も担っていて、それを両輪とするまちづくりを進めています。まさにそこでは、先ほどキーワードで出ましたマルシェも地元のNPOが中心になり、地元の方々と一緒に月に1回行っています。そのときに

は地域の農産物を地産地消という形で販売し、地域の人たちがそれを楽しむような場になっています。是非、アイランドシティもそういう仕組と機能をつくっていただく必要があるのではないかと思います。これは私が前回の最後のほうにも申し上げました。

それから、あともう一つは、このアイランドシティの強みをどういうふうにとらえるかということですね。まだ建設はされていませんが、既に立地が決まっているこども病院をどのようにサポートしていくのかということと、それを一つの核として、医療・福祉というテーマでどういうふうはこの地域のまちづくりを進めていくのか。それがもしかしたら、この地域のエコノミー・オブ・スコープと言いますが、あるテーマで集積してくると強みにつながっていくのではないかとご指摘と思います。それは場合によっては、単純に土地価格で相対的に比較評価される以上の評価につながってくるのではないだろうかというご意見だったかと思います。

では、海老井委員、どうぞ。

【海老井委員】 あまり時間がないようですから。今ちょっと委員長がおっしゃいましたけれども、今日の会議、アイランドの未来を語るときに、原点に戻って、一体アイランドをどういうふう位置づけるのか、そのコンセプトを全体的にもう一回確認した上で議論を進めるべきじゃないかということと、また、既に市のほうで、こういった地域にしたいのだということで、その構想の上にある程度進んでいる中で、その上でこれからどうしていくのかということと、それから、現に住んでいらっしゃる住民の方たちの意見をもとに考えていこうと、何か意見が非常に並行的に進みまして、今度3回目はどういうふうになるのかなとちょっと思っているところなんです。その中で既にこども病院が移転することが決まっているので、その上で意見を言わせてもらいますと、こども病院は、ほんとうにあそこに行く以上は、県外もでしょうけれども、非常に高度な、難しい病気の子供をアジアからも受け入れるような病院になるべきだというふうに思っておりまして、そうすると、難病とか長期の入院の子供たちが過ごしやすいように、また、そういう子供たちに付き添う家族、それから、見舞い客、ボランティアの方たちとかも集まるでしょうし、そういう意味では、こども病院のあり方というのは一つの健康、医療、福祉ゾーンの中で、核にして考えていくべきじゃないかと思います。そして、子供はそのうち大きくなりますが、大きくなったらよくなるというわけでもありませんので、やはり連続して治療を受けられる成人を相手にした病院も近くに併設されるべきじゃないかなと思います。また、住民の方たちも高齢化していくわけで、高齢者を対象にした施設もありますけれども、リハビリ

テーションセンターとかも総合的な医療の大事な核になるということも考えられるなど思っていました。また、いろいろな方がそこで宿泊することも必要でしょうから、滞在型の質のいい、豪華じゃないんだけど、安心して滞在できるような宿泊施設あたりも必要じゃないか。いろいろなことを考えていたのですけれども、そういった意味で、先程のこれからのアイランドの未来を考えていくときの議論の立脚点について、そのところがもう少し次回に向けて整理していただけるとやりやすいなというふうに今日は感じました。

【出口委員長】 ありがとうございます。はい、どうぞ。

【貫委員】 要するに、提案が分譲になっているんですね。ところが、今ご意見出ているのは、市、国、県が都市機能的なものを整備していくという考え方が出ているんですね。ですから、その接点をどうするかです。そこがごっちゃになってしまっていると思います。

【出口委員長】 ありがとうございます。

予定の時間が来てしまいましたが、まだご発言されてない方で、もし、いれば。はい、どうぞ、安藤委員、お願いします。

【安藤委員】 地元の署長であります。

今回2回目のフォーラムということで、他の委員さんのお話を聞きまして、ほんとうに20年後、30年後のアイランドシティはどうあるべきか、非常に夢と希望に満ちたといえますか、わくわくするようなテーマでありますけれども、私、警察でありまして、どうしても治安ということで考えます。決してわくわくはできない立場でありまして、今回は、このアイランドシティの治安情勢、若干説明をさせていただきました。非常に安定をいたしております。治安というのか、安全・安心というのは、まさに最善の福祉ではないかというふうに、私どもは考えるわけですけれども、そこで何が必要かといいますと、先ほど土屋委員のペーパーをいただきまして、「安全・安心・オープンマインド・絆」と、こう書いてありました。

最近新聞を見て感じたんですけれども、ある保険会社が、今日本の未来に最も必要なものは何かということについて、1万1,000人からアンケートをいただいたそうでありまして、最も多かったのが漢字一文字の「絆」だそうです。東北の震災がありまして、そういう意味でも家庭の絆とか、あるいは地域の絆、非常に社会の絆が大事だなあと感じております。

いわゆる犯罪が起きると、当然警察がそこで犯人を捜して、検挙するわけですが、やっ

ぱりこれでは被害回復はできない。物であれば、そのまま返してもらえば、これは被害がもとに戻るわけですがけれども、特に性犯罪とか、あるいは身体に対する犯罪が非常に多うございます。特に性犯罪は福岡県は全国ワースト・ワンでありました。ここ一、二年はワースト・ワンを外れておりますけれども、いまだに福岡県は多いし、特に福岡市が非常に多いんですね。性犯罪の被害に遭いますと、これは一生心に傷を持ちますし、回復不可能です。

そういう意味で、犯罪の起きない社会づくり、三つ視点があるんですけども、どうしたら犯罪が起きないかということで、一つが、いわゆる犯罪を行う可能性のある人物に着目した施策です。どういうことかといいますと、性犯罪の累犯者といいますか、特に13歳未満の強姦とか、あるいは強制わいせつ、これらについては再犯の可能性が非常に高い。私もあまり具体的には言えませんが、そういった者が刑務所から出所しますと、法務省を通じて警察庁、警察庁から各県警、県警から警察署にその情報が参りまして、そこで再発防止ということで、本人にじかに接して、そういった犯行を二度と起こさせない、こういう施策をやっています。

また、少年犯罪、福岡県は、これも全国ワースト・ワンに近いような、ほんとうに不名誉な現状でありますけれども、非行少年を再発させないと。ここでも私も警察署で少年係が対面して、家庭訪問とかしながら再発防止をやっています。これが犯罪を起こすおそれのある者に対する施策です。

それと、今度は被害者対策、犯罪の被害に遭う可能性のある人物に着目したところの施策です。これは従前からずっとやっておりますけれども、例えばアイランドシティには小中学校がありますけれども、つい二、三日前には、留守家庭子供会の生徒さんに防犯教室を行っております。6月には中学校の生徒150人に対して、やはり同じような防犯教室を行っております。それから、安全・安心に関するいろんなメール配信とか、そういうものもあります。いろいろな街頭犯罪があつています。ここのアイランドシティは少ないですけども、そのたびにメールで登録してある方に配信をして、注意喚起をしているわけですが、こういったもろもろの活動が被害者に着目した施策です。

問題はもう一つなんですけれども、犯罪の起きない環境づくりといいますか、環境整備です。ここが一番私は重要と思うんです。例えば、今アイランド中央公園、そんなに犯罪はありません。聞くとところによれば、今年は植樹が盗まれた、あるいはホームレスが中に入って、トイレで洗濯したり、あるいは体を洗ったりということがあつたようですが、

そういうところには、やはりだれでも入りやすい、しかし、見えにくいというところが問題でありまして、これをどうにかせないかん。どうしても、できない場合は防犯カメラとか防犯灯を整備することが大事ではないかなあと思うんですけれども、そこで、防犯カメラ、この点だけちょっとお話しします。防犯カメラは非常に効果があります。今重要凶悪事件検挙の報道がよくなされますけれども、ほとんどが防犯カメラを解析して犯人を割り出して検挙するという事なんです。事後捜査でも非常に役立ちますけれども、防犯カメラがあるから犯罪が抑止できる。例えば、ここでは例としてはふさわしくはないけれども、新宿歌舞伎町に私も行って見ましたけれども、非常に防犯カメラが多い。福岡市内でいうならば中洲、ここには30ぐらいの防犯カメラが設置されておりまして、設置後は非常に犯罪が減っています。昨年、大名校区でも非常に犯罪が多いということで、20基ぐらいが国の事業で配備されました。それから、西新の商店街の皆さんが自主的に20基ほど設置をされておるということで、今は、アイランドシティは犯罪が少ないですけれども、将来、どんな犯罪が発生するのかわかりません。今は想定外という言葉が通じない時代です。アイランドシティに車で乗り入れるには橋を渡ってくるわけですから、橋とか都市高の出口、ここらあたりに防犯カメラを設置しますと、抑止につながるし、何かあった場合には警察としては捜査がしやすいということでもありますから、ぜひこういった視点に立って、ぜひつけていただきたいなというお願いです。

もう時間もないようですから、まだ話したいことはありますけれども、次回ということで。

【出口委員長】 どうもありがとうございました。

逆に、そういった安全・安心な町だということになると、この地区の付加価値というところ変ですが、魅力がますます増していくことに、大きくつながっていくのではないのかと思います。また、その辺のノウハウをひとつご教示いただきたいと思います。

いかがでしょう、よろしいですか。では、済みません、時間がないので手短にお願いします。

【長沼委員】 済みません、手短に申し上げます。産業分野の集積を図るという中で、さまざまな自動車関連産業だとか対象分野が載っておりますけれども、やはり私自身はアジアビジネスという部分が最も着目すべき点かなというふうに思っております。

そんな中で、前回も申し上げましたし、さっき海老井副知事も言われましたけれども、こども病院に関しましては福岡市立アジア太平洋こども病院というぐらいの病院をつくっ

ていただきたいなというふうに思いますことと、そして、青年会議所のほうで23年前に設立しましたアジア太平洋子ども会議は、初めて来られた子供たちというのが現在もう30歳を超えて、それぞれが国、地域でリーダー的な存在として頑張っている中で、今でもその交流というのがございます。いわゆるグローバル化のビジネスの中で、日本との接点を持っていきたいという多くの方々がいらっしゃる中で、せっかくそれらのパイプがあるわけですから、ここの新たな産業を創出する町、その他の部分に日本初進出の外国企業、外資系企業という部分でのそれぞれの条件とか、こういうものがありますし、新病院もできるわけですので、ぜひセンター地区、産業ゾーンについては、もうちょっと細かく業態分野というものを考えて進めていければなというふうに思っております。

以上です。

【出口委員長】 ありがとうございます。

いかがでしょう。済みません、手短にお願いしてよろしいですか。また、残りは次回にご発言いただけるようにお願いします。

【森委員】 手短にさせていただきます。各委員のお話、住民としてほんとう大変貴重なお話をいただいております。私が思いますのには、このアイランドシティはもう20年たっておるわけですね。一番最初に構想された方の思いを考えると、干潟を残していただいて、こういうラウンドにさせていただいた。これは大変苦しかったでしょうけれども、よくぞ考えていただいたなあ。そういうことも含めると、先ほどお魚の話も出ましたけれども、実は志賀島漁港というのがありまして、今日出された資料も、すべてそういうものを包括していただいておりますので、そういうものとあわせて、アイランドシティをどうリンクさせていくか、そういう視点も、非常にこれからの委員のご発言の中で参考にさせていただきたいなと思っております。

それから、最後には、やはり何でもブランド名ということは大事で、冒頭、みなとみらいとか、あるいは神戸のことを申し上げましたけれども、ブランド名で、百道がどれだけ全国的に有名かという、神戸の六甲アイランドとか、横浜のみなとみらい並みのブランドをいかに確立していくかというのもすごく大事ではないか、そういう視点で、福岡市民全体でブランド名を上げていこうというような形で議論が進行されていくと、また住民としても大変喜ばしいことかなと思います。

最後に、委員長がおっしゃったように、住民が物をつくっていくという話の中で、23ページにありますように、スロージョギングとかツール・ド・フクオカとか、はっきり言

って百道は見るスポーツですけれども、アイランドシティはこういうふうにして、歩いて、運転させて、子供から介護まで、そういうコンセプトを市につくっていただいているわけですから、それをもっともっと住民として活用していかなくちゃいかなというのを強く思っております。ありがとうございました。

【出口委員長】 どうもありがとうございます。

よろしいでしょうか。もう時間のほうも過ぎましたので、言い残したことは次回に是非ご発言いただきたいと思えます。

私が中間の段階で、皆様から出された意見を整理しておりますので、繰り返しは申し上げませんが、今日の議論は、おそらくこのアイランドシティの未来フォーラムで取り上げる枠組みの幅をある程度決めていただいたと思えます。

まず、今日説明いただいた資料は、現状認識を共有するというためのものですが、もう少し上位にさかのぼり、アイランドシティだけに焦点を絞るのではなく、より幅広くといいますか、福岡市全体、さらには日本の国土計画全体の展望を見据えた上位概念をもう一度将来シナリオとして考えてみることに、あるいは実際に実務的な観点から、この地域、この地区に事業者を誘致していくようなインセンティブ、あるいはビジョン、方策を考えていくということで、その議論の幅を、今日ある程度決めていただいたのかと思えます。

この幅に基づきまして、最終的にはこのフォーラムで提言を取りまとめ、市長さんにお渡しするということになっております。次回また、もう一回今日のような形式で議論を進めさせていただきたいと思えます。4回目以降に出していただきました意見の枠組みを大きく整理しまして、それに基づきまして提言に向けての議論を収束させていただきたいと思っておりますので、ひとつよろしくをお願いします。

最後に補足ですが、このアイランドシティの強みがきちんと整理されてないのではないか、逆にいうと、弱みが整理されてないのではないかという点が、最後ご指摘としてあったと思えます。どうも、その点が整理されてないので、今日の資料も手際よく説明していただきましたが、グリーンアイランドの創造という全体コンセプトから、最後の新産業研究開発ゾーンに集積を進める分野の設定までが、どうもロジカルにつながってない、あるいはどうもしっくり来ない印象を受けたのではないのかと思えます。是非また、次回以降にその辺を整理して議論していただければと思えます。よろしく願いいたします。

今回は、本日のご意見、ご質問を踏まえまして、博多港の将来像とアイランドシティの企業立地を促進するための手法等についてを議題としまして、前回村田委員からご提案が

ありました地域住民の方々のご意見の紹介や、今日ご承認いただきました民間事業者の方のご意見を参考にしながら、都市機能についても議論を深めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、これもちまして、第2回のアイランドシティ未来フォーラムを閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

進行を事務局のほうにお返しいたします。

【事務局（谷口）】 次回の日程のご案内をさせていただきます。第3回フォーラムは9月17日土曜日13時30分から、会場は別の場所になりまして、福岡国際ホール、西日本新聞会館の16階の大ホールBで行います。大丸のビルの上のほうでございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

— 了 —